

第2号様式

会 議 議 事 録

1 会議名	平成24年度長岡市男女共同参画審議会
2 開催日時	平成25年3月25日(月曜日) 午後4時00分から午後5時00分まで
3 開催場所	まちなかキャンパス長岡501会議室
4 出席者名	<p>【委員9名】</p> <p>石川 伊織 金澤 ゆかり 菊池 いづみ 黒岩 海映 小林 宏一 小林 守 土田 和美 樋熊 憲子 平石 祥吉</p> <p>【事務局6名】</p> <p>吉田市民部長 小池市民活動推進課長 渡辺特命主幹 堀川総括主査 大久保主査 坂田主任</p> <p>他に関係課職員8名が同席した。</p>
5 欠席者名	稲垣 文彦 金山 眞理子 小池 裕子 嶋田 巧三 平野 保雄
6 議題	(1) 第2次ながおか男女共同参画基本計画の進捗状況について (2) 意見交換
7 審議結果の概要	<p>(別添次第及び資料に基づき議事を進行した。以下に要点を記す。)</p> <p>1 開会</p> <p>2 あいさつ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 市民部長よりあいさつ <p>年度末のお忙しい中、ご出席いただき感謝申し上げたい。</p> <p>本審議会は、男女共同参画の重要施策について審議していただくために、条例に基づき市長の附属機関として設置しているものであり、本日は昨年度に策定した2次基本計画の「平成24年度進捗状況」について報告したい。</p> <p>今年度の主な取組としては、昨年10月に「配偶者暴力相談支援センター」を開設、1月には企業経営者を対象としたワーク・ライフ・バランス講演会の開催等を行った。</p> <p>委員の皆さまから、自由闊達なご意見をいただきたい。</p> <p>3 議題</p> <p>(1) 第2次ながおか男女共同参画基本計画の進捗状況について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 事務局より資料説明

(2) 意見交換 【 】は計画の事業 と事業名。

(委員)

【 06 小・中学校の教職員を対象とした男女共同参画を含む人権教育に関する研修】と【 49 学校におけるセクシュアル・ハラスメントの防止】について、最近では柔道界での問題が取り上げられているが、スポーツにおける指導の場面で、パワハラやセクハラの問題が生じやすいので、ぜひ、教育の場からそういう問題がないように取組をお願いしたい。

【 15 事業者などでの女性の参画促進】について、ハッピー・パートナー企業の取組はとても良い。広く知ってもらうために、メディアを巻き込んだの周知徹底をお願いしたいし、できる範囲で協力していきたい。

防災教育プログラムについて、中越防災安全推進機構や県の教育委員会の協力の下、災害を経験した長岡の知見を県全域に広げていくための取組がなされており、感銘を受けている。

先日、上越市の平成 25 年度予算について、地域推進員制度等の事業廃止が報じられた。財政事情からやむを得ない面もあるだろうが、長岡市においては必要な施策は今後も継続されていくことを求めたい。

(事務局)

本日欠席の関係課の事業については、委員のご意見を担当課に伝える。

【 15】について、ハッピー・パートナー企業は、全県で 500 社を超えた。引き続き PR を行い、働きやすい職場づくりに取組みたい。県の制度ではあるが、積極的に取組んでいる企業を表彰する等、市独自の施策も検討したい。

防災の取組について、長岡市では【 18 平日日中の災害発生時のシミュレーション事業】として、平日の日中に地域にいる子育て中の母親や高齢者を対象として、年 2 地区ずつ (H23 は日越と山通、H24 は豊田と新町、H25 は未定) のモデル作りとして危機管理防災本部と連携しながら防災訓練を行っており、今後も意識啓発を図りたい。

男女共同参画施策の継続について、長岡市は【 03 ウィルながおかフォーラムの開催や情報誌の発行】として、市民公募委員と協働して、フォーラムや情報誌の発行についての企画から運営まで行っている。他にも支所と連携し、実行委員が各地域に入ってテーマを決めたおしゃべりをする等の取組も行っており、今後も継続したい。

(委員)

おしゃべりは、テーマとなる切り口が多いため、地域に即した内容で実際に話をしながら展開している。地域参加型で新しい気づきを得るための取組として行っている。

(委員)

男女共同参画という一見わかりにくいテーマを、具体的な施策にしていくことの難しさを感じている。

【 09 政策方針決定過程への女性参画割合向上】について、前年度比 0.4 ポイント減少している。あて職が多いと聞いているが、特に規定がなく慣例的に男性が多いものについては、今後のさらなる改善を期待したい。

ワーク・ライフ・バランスは、企業の理解と協力がなければ進まないため、企業経営者を対象とした講演会はチャレンジングなことであり、評価したい。育児に比べると介護への取組は遅れており、介護休業等を整備している企業はごくわずか。さらに意識啓発を進めてもらいたい。

【 43 高齢者や介護者を地域全体で支える体制づくりの推進】について、長岡市の地域包括支援センターは、とても前向きに取り組んでいるので、今後も期待している。

(事務局)

女性登用について、指針を策定して全庁的に周知している。委員選任時は市民部長に事前協議し、30%未満の場合はその理由を明示し、次期改選期での改善を求めている。今後も個別のケースを見ながら対応していきたい。

(委員)

市民の中に入りながら、参加型の取組を行っていることを評価したい。

特に【 45 DV防止の意識啓発の推進】について、支援者養成講座やデートDV出前講座はとても大切。今後も継続・拡充してもらいたい。医療機関向けDV被害者対応マニュアルの改訂等をされている。東京都では医療関係者向けのDV研修を実施し、医師と弁護士が話をする形で150人以上の参加があるので、そういう取組も期待したい。

【事業 49 学校におけるセクシュアル・ハラスメントの防止】については、誰もがなるべく触れたくないし、問題はないと思込みたいテーマであるため、どうしても後回しになりやすいが、「セクハラを含めた人権課題に関する研修」ではなく、事業名のとおり「学校におけるセクハラ防止」に特化した形での取組をぜひお願いしたい。

(事務局)

DV防止の意識啓発については、今後も取組んでまいりたい。

(委員)

アマチュアや市民スポーツの推進委員をしている立場から、長岡市のスポ

ーツ分野では、セクハラ・パワハラの問題はなく、逆に女性リーダーがとても多いため、男女共同参画を広げていくための起点となる分野と捉えている。

企業経営者の立場からは、様々な取組を継続して進めていくことが大事だと認識しており、その結果として女性リーダーが増えて行くと考えている。

優秀な女性は多いが、現実としてはなかなか進まない難しさがある。社員全体では男性6：女性4だが、部下を持つマネージャーでは男性9：女性1であり、今後の取組を積み重ねていきたい。

(委員)

計画全体としては、積極的に取組んでいる印象を受けた。

【 28 働きやすい職場環境推進事業】について、マニュアルを作成したとあるが、行政の取組としてはとても進んでいる。ぜひ1冊提供していただきたい。

働く方の悩み相談も受けているが、労働関連の法律を知らない方が実に多い。学校で学ぶ機会もないため、こういう取組を広めていただきたい。

労働局から聞いた話では、企業の6～7割くらいはチェックが必要な状態とのことなので、企業も労働者もお互いに学んでいくことで、誰もが働きやすい職場づくりを進めていきたいと考えている。

就労希望の相談やライフサポートやパーソナルサポートセンターにおいて、引き続き、市の関係機関と連携していきたい。

(事務局)

マニュアルについては、後日、委員にお届けしたい。

ウィルながおかにおいても、月に2回、産業カウンセラーが「仕事・職場の悩み相談」を実施している。今後も必要な連携を図りたい。

(委員)

【 12 コミュニティでの女性の参画促進】について、地域における取組では女性が活躍している。男性ばかりだとなかなか人が入りにくいところも、女性が声をかけると集まりやすいという場合もある。

【 14 農業分野での女性の参画促進】について、女性の意識も変わりつつあるが、参画する人はまだまだ少ないので、今後も勉強会を重ねていく必要がある。今年度は総代約500人中、1割を女性枠とし、54人の女性総代が誕生した。経営管理委員についても、17人中女性2人の現状から、今後増えることを期待している。農業委員は約60人中、女性0人。今、TPP問題もあり、食の安全がこれからも大事であるし、これからの農業に女性の声をもっと活かしていきたい。

【 16 生き生き農らいふ支援事業】について、6次産業化の推進として、

地元野菜での漬物づくり・販売等をしている。働く女性の積極的なアイデアと元気をこれからも活用していきたい。

(委員)

学校の役員会等の出席者はお母さん方ばかり。お父さんの出席率はとても少ないので、お父さん方の参画を期待している。ただ一方、会長や役員となると、男性が多い。長岡市内の89校のうち、5%くらいしか女性のPTA会長はいない。大きなギャップがあるので、女性の活躍推進を図りたい。

【 22 思春期・青少年相談】と【事業 23 青少年育成活動】については、育成委員の見回り等の取組に対して、とても感謝している。

【 56 児童虐待対策関係機関との連携】について、市内の保護者を対象に、虐待を研究している専門家をお呼びして勉強会をした。メディアで見ただけであった事件が実際に長岡市でも起きていることがわかり、実態を知るという点で非常に良い取組だったと考えている。

(事務局)

【 22・23】について、青少年育成センターと連携して、駅前の見回り等しているが、最近は駅前やゲームセンターに行く子どもは少ない、というのが現場の認識としてある。

【 56】について、要保護児童対策地域協議会の担当にも伝え、引き続き、必要な取組をしてまいりたい。

(委員)

男女共同参画というと堅苦しいイメージがあるが、身近なところから取組を進めて行くことが肝心。大事な視点がぶれないように、一步ずつ進めていきたいと考えており、各推進課の取組に感謝している。

条例ができたことはとても大きいことであると、つくづく感じた。

(委員)

全体として、進捗状況の表現の仕方が漠然としていることを心配している。

例えば【 01 広報の手引きの修正と活用】について、見直しのための情報収集をしたとあるが、どういう情報収集をしたのかがわからない。具体的な記載することで、市役所の取組を理解でき、このような方法がある、あのような事例があるという、今後の発展についての議論がしやすい。

数値がある事業については、年度初めと年度末の数値が異なる場合、なぜ増えたのかあるいは減ったのか、という分析が書かれていると具体性が高まる。ただ単に「やりました」だけではなく、「何をどのくらい」やったのかを記述することで、進捗状況のチェックをして、10年後の計画目標達成に向け

	<p>て、どのレベルまで来たかを測ることが大切である。「計画より下回ったからダメ」という採点をするには目的ではない。</p> <p>【 52 配偶者暴力相談支援センター機能の整備】について、センター開設自体は、ものすごく大きな前進。しかし、具体的な機能について記載がないため、どれだけ前進したのかをPRしきれていない。</p> <p>進捗状況のチェックは、現在地を把握し、課題を認識し、改善策を考えるために必要なことなので、具体的な記載を求めたい。</p> <p>今春も多くの学生が就職するが、女子学生から「ずっと働きたい」という声が増えており、「働きやすい職場」は企業選択の大きな基準。ハッピー・パートナー企業は、登録後も継続して取組を推進しているかという点で実態把握が必要であり、登録数を増やしてPRするだけでなく、実態を重視して、有能な人材を新潟県内・長岡市内に定着させていかなければならない。</p> <p>(事務局)</p> <p>進捗状況の表現については、総合計画の記載レベルに準じて、簡易な表現に留めたものだが、今後は具体的に「何をどのくらい」やったのかがわかるような記載方法を検討課題としたい。</p> <p>配偶者暴力相談支援センターについて、開設して半年になるが、新潟市の場合は半年後の相談が4倍になったと報じられていた。長岡市の場合は以前からウィルながおか相談室でDV被害者への対応をしており、相談の大幅な増加や大きな混乱はなかった。しかし、1月末時点の相談件数は、前年度比で約2割増加し、増加傾向にある。今後の状況を注視しながら、必要な対応をしたい。</p> <p>ハッピー・パートナー企業の状況について、県が毎年チェックしているが、その結果は各市町村にはフィードバックされないため、詳しくは把握していない。しかし、市としても取組紹介パネルを作成することにより、PRするとともに企業の実態把握に努めている。</p> <p>本日の委員の皆さんの意見を踏まえながら、来年度以降の取組を進めてまいりたい。</p> <p>4 閉会</p>
8	(出席委員の署名欄) (略)
9	<p>資料</p> <p>(1) 第2次ながおか男女共同参画基本計画の体系について</p> <p>(2) 平成24年度進捗状況報告書</p>